

平成22年度事業計画書

(平成22年9月1日から平成23年8月31日まで)

特定非営利活動法人フードバンク関西

I 余剰食品の回収と福祉団体への無償分配事業について

フードバンク関西は、昨年度に引き続き本年度も食品関連企業から余剰食品を回収し、生活弱者の自立を支援する社会福祉施設や福祉団体にこれら食品等は無償で分配する事業を継続し、さらに発展させます。

また新年度の取り組みとして、「食の緊急セーフティネットの役割を担う」という新しい活動を開始します。具体的には、地域自治体福祉担当部署と協働し、市役所等の生活保護申請窓口担当者が、相談に来た申請者に対し緊急に食支援を要すると判断した場合、担当者からの要請にフードバンク関西が応えて食品を提供し、行政担当者あるいはケースワーカーを通じて対象者に手渡すというものです。これにより、福祉のネットから洩れている個人あるいは世帯への緊急支援が実現できる事を期待しています。今年7月には事務所所在地である芦屋市担当者との話し合いを持ち、この活動をすでに試行しています。

これは、「空腹なのに食べるものがない。」という恐怖をこの社会からなくす事に、フードバンク関西として一役を担いたいという新たな挑戦です。

II フードバンクネットワーク構築への対応

昨年度の農林水産省フードバンク活動調査報告により、すでにフードバンク活動を行っている団体が全国に10以上ある事が分かっています。それらの多くは、まだ活動を開始したばかりで実績も少なく手探り状態なのですが、その中でフードバンク関西は、特定非営利活動法人セカンドハーベストジャパンに続いて、活動年数も8年と長く、取り扱い食品量も年間130トンを超え、企業との信頼関係も独自に築き、活動の方法も確立して、日本で2番手のフードバンクとして実績を積んでいます。

今後、大企業や農林水産省等の行政機関との交渉では、それぞれのフードバンク団体単位ではなく、同じ趣旨で活動するフードバンク団体が連携を作り、そのネットワークを代表機関として交渉に臨む方が効果も大きく効率的でもあると考えます。

また、このネットワークを通じてそれぞれのフードバンク団体の情報交換を進め、食品の偏りや供給と需要のアンバランスの調整等、具体的な相互支援体制を構築する事が出来ます。また活動を開始したばかりのフードバンク団体には、方法のアドバイスや情報提供、場合によっては食品供給なども含めて、このネットワークを通じて支援をする事で、日本でのフードバンク活動の拡大と拡充に貢献する事が出来ます。

このネットワーク構築については、まだ一部関係者の間での構想でしかありませんが、フードバンク関西も他のフードバンク団体との協議に積極的に参加し、このネットワーク構築に、前向きに関わっていきます。

III 問題点の解決への方法

フードバンク関西の最大の問題点は、この事業から収益を上げる事が出来ないという事にあります。今までもこの事業の運営資金は、この事業に賛同して下さる皆様か

らの寄附と、その不足分を民間福祉財団が公募する助成金に依存してきました。しかしながら、助成金は応募しても選考に通らない限り受領できず、継続しての受け取りは困難で、毎年確実な予算の立てられない不安定な運営を続けています。

昨年度、事業拡大が目覚ましく、それに伴う事業費が一挙に1.4倍以上に拡大するという事態を迎えました。作業量の増加に伴って一部有償ボランティアの起用を始めた事もあるが、継続的に安定確保しなくてはならない収入予算額が著しく増加しました。当法人の場合、これら事業拡大に伴う運営コストの増加が、事業自体を圧迫するという大きな自己矛盾を抱えています。

昨年度、当法人は食品を受け取り活用して下さる福祉団体に賛助会員として年会費のご負担をお願いする事で、安定継続的な寄附の一部確保を実現しました。

本年度は、食品を提供して下さる企業の皆様にも、この活動への運営費支援をお願いする努力をしたいと思います。社会のフードバンク活動への認識も変化し、フードバンク活動に協力する事は企業の社会貢献と認識され、企業イメージの向上に繋がっています。フードバンクに食品を提供したり、運営資金を支援する事を企業が顧客である消費者にアピールする機会を創出し、企業にもフードバンク関西との協働が他社との差別化にプラスに役立つように工夫をする事を試みます。

さらに、この事業を通じて知己を得た「福祉事業を行う非営利団体」との連帯を強め、それぞれの活動趣旨を発展できるような互惠関係を作っていきたいと考えます。

また一般市民の皆様にも、ご負担の少ない形での賛助会員としての参加を求め、「地域の余剰食品を、地域のボランティアによって、地域の生活弱者に還元し、それらの活動を地域の皆様に支えていただく。」という、フードバンク関西が目指す、フードバンク活動の理想の実現への努力も行っていきます。